

メディア授業における 学生への情報保証と合理的配慮

OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター
望月 直人

1

本日の進め方

- オンラインFDセミナー： **12時～13時**
- 講義時間： **12時～12時45分**
 - セミナーの形式：同期型配信 音声講義+スライド
- 質疑応答+アンケート： **12時45分～12時55分**
 - 講義中も、適宜チャット機能で質問を受け付けますので、何かあれば、どんどんお願いします

2

メディア授業における学生への情報保証と合理的配慮 ～目次～

1. **メディア授業の目的と考え方**
目的、教育的対応と合理的配慮について
2. **メディア授業におけるユニバーサルデザイン**
授業形態ごとの特徴や対応の工夫について
3. **メディア授業における合理的配慮一障がい種別一**
精神障がい、発達障がい、視覚障がい、聴覚障がい、
肢体不自由
4. **補足**
留意点、便利なツール、相談窓口、参考資料

3

目 的

- メディア授業における情報保証について共有する
ー全ての学生が教育内容にアクセスし、必要な教育を受けられるようにするため
➡ **メディア授業におけるユニバーサルデザイン**
- メディア授業における合理的配慮について共有する
➡ **障がいのある学生にも学ぶ機会を保证するため**

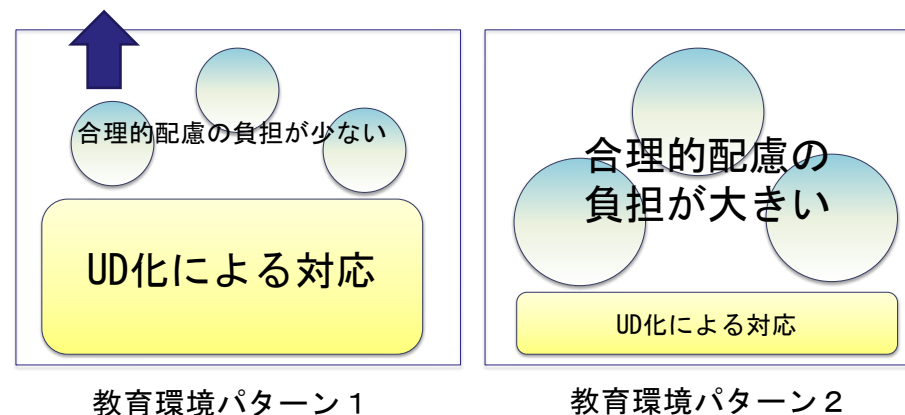
4

教育的配慮(対応)と合理的配慮 (高橋、2018)

	教育的配慮(対応)	合理的配慮
対象	すべての学生	障がいのある学生
意思表示	原則として必要	必須
実施の可否	教員の裁量 大学の方針	要件を満たせば 法的義務(差別解消法)
手続き	教員の判断	ルールに沿って手続き が必要

教育的配慮/対応(ユニバーサルデザイン) と合理的配慮

支援の質も向上



6

メディア授業における ユニバーサルデザイン

メディア授業における基本的な環境整備

- 学生もメディア授業を受けることに慣れていない
- 自室で受講するための適切なネットワーク環境や機材が十分に揃っていない場合もある
- PCやタブレットの操作手順を覚えることに時間がかかる学生もいる

- ↓
- 学生が情報にアクセスできているか確認し、必要な場合には個別に連絡をする。
 - 機材の使用法や授業参加の方法がわかりにくい学生には個別に指導をする。
 - 不足の事態を想定し、動画や資料等は後からでも学生が閲覧できるように作成し、ネットに上げておく。(課題内容や提出期限等の重要事項含む)

7

メディア授業において学生に必要なスキル

授業形態	学生の学ぶ方法（スキル）
配布資料	配布資料を「読む（見る）」 音声講義を「聞く」
配布資料＋音声講義	動画の中のスライドや板書を「見る（読む）」 メモを「書く」
配布資料＋音声講義＋スライド	2画面の場合は「見比べる」 上記を「並行して作業する」
配布資料＋音声講義＋スライド＋板書（動画配信）	画面や音声、資料に「集中する」 双方向の場合は
配布資料＋音声講義＋スライド＋板書（動画配信）＋学生と双方向	「1対1」「複数人」でのコミュニケーション

通常授業よりもこれらのスキルを発揮しにくい環境
配慮申請がなくても困難な学生がいることを想定する

非同期型メディア授業における 学生のpros and cons ＜講義資料・音声講義・動画配信＞

PROS	CONS
・ 繰り返し見聞きして学ぶことができる ・ 自分の好きな時間に取り組めるため出欠を気にしなくてよい ・ 提出物や提出期限も記載してあると随時確認することができる ・ 動画配信では通常授業に近い情報量を得られる	・ 好きな時間にできると思い後回しになる ・ 通常よりも課題量が増える ・ 集中が続かない ・ 文章情報だけの理解では学びが足りない ・ 図や表、抽象的な情報は文字だけでは理解しにくい

10

メディア授業における対応の工夫 講義資料作成時 「読む」「見る」

- 図や表を用いる際には、その説明も加える
- 文字数やサイズ、行間は適宜読みやすいように考慮する
- 色覚認知が弱い学生を考慮し、強調部分では色を用いず、できるだけ**太字、下線**を引く
- 講義資料内で重要事項を通知する際は、「課題内容」「提出方法」など見出しや別途スライドを付ける
- 教育の質の担保のため、適宜補足資料の提供や参考資料を紹介する

11

メディア授業における対応の工夫 音声による講義（動画や同期配信含む） 「聞く」と その他「並行作業」

- 指示語はなるべく控える
- 極端に早口にならないように気をつける
- あいまいな表現を用いず、具体的かつ明瞭に話す
- 使用する資料・テキスト等のページ番号を述べてどこの何を説明しているのかわかりやすくする
- 図や表・映像を使用する際はその概要を説明する
- 話す時は適宜休憩を入れるように意識する
- 学生の理解に合わせ、動画やスライド以外の資料を適宜準備する

12

同期型メディア授業における 学生のpros and cons

PROS

- ・ 通常授業に近い情報量を得られる
- ・ 能動的な参加ができる
- ・ その場で質問しやすい

CONS

- ・ 手元に資料がない状態での講義はメモがしにくい
- ・ 理解が講義のスピードについていけない
- ・ 板書が見えにくい場合がある
- ・ 発表やグループワークに抵抗がある
- ・ 自分の顔や他の学生が見えるのが緊張して困る（嫌と感じる）

メディア授業における対応の工夫 双方向「1対1」「複数人」でのコミュニケーション

- 講義中の質問は、オンラインやチャットで対応する
- オンラインにおけるGWは発言するタイミングがわかりにくくなりやすいため、グループに分けた際は画面上で発言できているかを確認する
- 対人緊張が高い場合は、カメラの利用について柔軟に対応する
- 多数の参加者の前で発表することが難しい場合は、個別の時間を設定する、少人数のグループを設定するなどの対応を行う
- 発言を求める際（ディスカッション、グループワーク、発表など）は、チャットでの発言も認める
- 評価についても音声とチャットを同等に扱う
- ディスカッション、グループワークでは司会を決めて、やりとりが道筋立てて進められるようにする（構造化する）

14

メディア授業における対応の工夫 課題提出や評価について

授業形態により通常よりも課題量が多くなることが懸念される

- できるだけ90分以内で課題が完結する量を検討する
 - 課題量の調整や提出期限の延長など、柔軟に対応する
 - 提出期限が短いレポート作成は、筆記や操作に時間がかかる可能性を考慮し、できるだけ期限に余裕を持たせて設定する
- ※小テスト等時間制限のある課題は、適切な時間延長や別途時間を設けるなどの対応を行うことが望ましい

15

メディア授業における対応の工夫 学生との連絡方法について

- 講義に関する質問などを受け付けられることを、適宜、通知するとともに窓口を明確しておくことが望ましい
(例：…@osaka-u.ac.jp)
- 講義中の質問は、オンラインやチャットで対応する
- 重要事項（講義や提出物など）についての連絡は、CLE、メールなどによる通知が望ましい
- 学生とのコミュニケーションツール（CLE、KOAN、メールなど）は複数使用せず、できるだけ一本化して明確にしておく

16

メディア授業における合理的配慮 —障がい種別—

17

個別の合理的配慮について

合理的配慮が必要となる学生については、合理的配慮に関する配慮依頼文が各教員に通知されていますので基本的にはそちらを参照ください。ただし、**申請時期によりメディア授業に配慮依頼内容が対応しきれていない場合もあります**。その場合は、**追加で個別に配慮依頼を通知しますのでご相談させてください。**

18

精神障がいの特徴 (気分障がい、不安障がい、統合失調症 等)

- うつや躁状態、意欲低下、興味や喜びの喪失等、**気分の変調**がみられる
- 幻覚・妄想、思考障がいなどから**情動が不安定**になる
- 対人不安や、全般的な不安を抱きやすく、パニック発作を起こす場合もある
- 睡眠障がいも併発し、活動レベルも低下するため**生活リズムが不安定**になる
- 症状の程度、服薬による効果/副作用、など特徴は人によってそれぞれ異なる

⇒これらのことから、集団での学習や時間割に沿った授業参加が困難になることがある
→発達障がいの**2次障がい**として合併していることも多い

19

精神障がいのある学生の メディア授業に対する声

PROS

- ・ 対人不安のある学生は、**自室という安心できる環境で受講できる**
- ・ 人前での発表が困難だった学生は、**オンライン上だと発表できた**
- ・ 睡眠障がいの学生は、受講しやすくなった（**非同期型授業のみ**）
- ・ 対人不安のある学生が、**通学や教室に入るためのエネルギーがなくて済むので多めに履修登録できた**。
- ・ **カメラに映らない、会話に参加しない、質問をチャットで行うなどの対応により、GWに参加できた**

CONS

- ・ **生活リズムが崩れ気味で受講できていない科目が出てきた**
- ・ リアルタイム（同期型）の授業では、**他の学生の顔や自分の顔を見ながら受講することがストレス**
- ・ **自分の顔を写したくない**
- ・ **ネット提出の課題がうまくできていないか不安**。教員からのFBがないとわからない

配慮内容

講義	● 質問やディスカッション等はチャットの利用を認める ● 自分の顔を写さないことを認める（写真等に変える）
連絡	● 重要事項は配布資料に明記し、必要があれば掲示板やメール等その学生が見やすい方法で連絡をする ● 課題提出状況などで出欠を確認し、必要があれば個別に連絡をとる
課題・評価	● 課題量、内容、提出期限について適宜調整をする

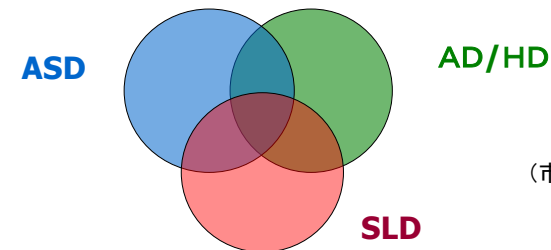


ユニバーサルデザインでカバーできることが多い
メディア授業と相性がよい面もあるが、状態把握のため、
定期的な連絡が大切！

21

発達障がいの特徴 (自閉症スペクトラム症、注意欠如多動症、特異的学習症)

- ・ 見る、読む、書く、聞く、推論する、計画を立てる、必要な刺激に注意を向けて持続させるなどの認知機能やコミュニケーションなどに特徴を有し、修学上の困難さにつながることもある
- ・ 複数の種類の発達障がいがある1人に重なっていることも多い
- ・ 生活リズム/様式の変更の影響を強く受ける(睡眠障がいの併発も)
- ・ 症状の程度や特徴は人によってそれぞれ異なる



(市川を改変)

22

発達障がいのある学生の メディア授業に対する声

PROS

- ・ 動画配信は、自分で調整できるため（巻き戻し、早送りが自由）見逃し聞き逃しに対応できる。
- ・ スライドや配布資料がアップされるのでわかりやすい
- ・ 配布資料に提出物等の記載がある
- ・ CLEを見れば提出物を確認できる
- ・ オンライン授業が始まったばかりでありゆっくり丁寧に説明してくれる先生もいてわかりやすい。
- ・ チャットだと質問しやすい
- ・ 周囲の音が気にならない（受講生が多い授業の場合、特に気になっていた）

CONS

- ・ 科目ごとに授業展開、課題の提示・提出方法が異なるため、mail、KOAN、CLE等を使いわけねばならず必要な情報を把握しきれていない（見逃し聞き逃しが増える）
- ・ 授業についての変更が多く、確認が困難
- ・ 課題量が増えて、課題を期限までにこなすことが難しい
- ・ 生活リズムが崩れ気味で受講できていない科目が出てきた。
- ・ グループワークがもともと苦手であり、オンラインのグループワークで発言できるか心配

配慮内容

- | | |
|----|---|
| 講義 | <ul style="list-style-type: none"> ● できるだけ文字や画像を用いて視覚できるものにする ● できるだけ視覚情報と聴覚情報を一致させる。
(例) 資料を読む時間を設ける（事前に配布する）
スライドを読み上げてから補足説明をする
→混在する場合は、理解の確認のため適宜対象学生に声かけ（チャットなどで）できるとよい ● 動画視聴では、字幕があってもついていけないことがある。別途テキストデータを用意することが望ましい ● 動画や画像、資料は学期中はいつでも閲覧可能にする ● ディスカッション等はチャットでの参加を認める |
|----|---|



講義に関してはユニバーサルデザインでカバーされていることが多い

メディア授業と相性がよい面がある！

24

配慮内容

連絡	● 重要事項は配布資料に明記し、必要があれば掲示板やメール等その学生が見やすい方法で連絡をする ● 学生とのコミュニケーションツール（CLE、KOAN、メールなど）は複数使用せず、できるだけ一本化して明確にしておく
課題評価	● 課題が重なった場合には、計画的に行うことの難しさから提出期限の延長が必要になることがある



授業外の課題量の増加によるスケジュール管理や、必要な情報へのアクセス面での課題が浮き彫りになってきている

対象学生の状況を適宜、把握することが大事！

25

参考（熊本大学 菊池先生のTwitterより）

大学オンライン授業におけるUD化（菊池哲平・熊本大学）

・発達障害(もしくはその傾向)のある学生のために...

配信動画はできるだけ高画質に文字がぼやけると判読しづらくなるのでくっきりと	ヘッドセットを使う音量の統一や反響音の軽減をして聞き取りやすく	休憩時間の設定通常の授業よりも過集中になりやすいので適度な休憩を	質問の受付方法の明示授業で不明な点があれば質問しても良いことで安心してもらう
課題量のコントロール各授業で課題が出されるのでオーバーワークになりやすいため配慮が必要	学生同士の対話ではルールを明確にブレイクアウトルームなどを使う場合は話し合いの手順などを明確に示す	オンデマンドでない場合は見逃し配信を何度も見直しできたり、接続トラブルがあっても安心	楽しい雰囲気を作る一人で受講しているのでは授業が楽しくなる工夫を

視覚障がいの特徴

- ・ 文字・図表等の視覚的情報にアクセスするのが困難
- ・ 相手の視線、表情や身ぶり、手ぶりが読み取れず、心情をつかみにくい
- ・ 指示語等のあいまいな表現を理解しにくい
- ・ 全盲から弱視まで見え方の程度や特徴は人によってそれぞれ異なる

27

視覚障がいのある学生のメディア授業に対する声

PROS

- ・ レジュメや配布資料が基本、パソコンの拡大機能で読むことができる電子データのためアクセスしやすい
- ・ 動画配信は、自分で調整できるため（巻き戻し、早送りが自由）見逃し聞き逃しに対応できる

CONS

- ・ 拡大しても見えないぐらいに、配布資料内の画像が小さい場合がある
- ・ 課題が多く、作業に時間がかかるため疲労がたまりやすい

28

配慮内容

講義

● 講義資料に関する配慮

➢ 読み上げソフト、点字を使用する学生（全盲等）

- ・ 読み上げ可能なテキストファイルに変更し、事前提供する
- ・ 図・表・写真は、**詳細をテキストで追加する**
(パワーポイント資料は、スライド番号を表記し、word等でまとめることが望ましい)

➢ 電子ファイルの拡大機能を利用する学生（弱視等）

- ・ できる限り図表を見やすいように大きく作成
- ・ **事前に資料を提供**

※事前提供していない資料を、画面共有機能を用いて表示する場合は、口頭で丁寧に説明してください。

29

配慮内容

機器操作

- 学生がZOOM等のアプリ・システムに**アクセス可能か確認する**
→読み上げソフトが対応していないこともある

課題評価

- 課題が重なった等の事情で、**提出期限の延長が必要になることがある**

障がい固有の配慮が明確にある！

30

聴覚障がいの特徴 学生のメディア授業に対する声

- ・ 音声だけでは情報の理解が困難である
- ・ 聞こえが困難なため、どの情報を聞き漏らしているのかが、本人にはわからない
- ・ 聞こえ方の程度や特徴は人によってそれぞれ異なる

PROS

- ・ 教室での授業に比べて**雑音が圧倒的に少ない**。
- ・ **距離があって見えづらいということがない**。また、**発言者もカメラに近い**ため、唇の動きを読みやすい。
- ・ zoomのチャット機能や、CLEの掲示板等、**文字でのやり取りの機会が多い**。

CONS

- ・ 教員の話しや動画教材などの**音声言語を聞き取る事が難しい**
- ・ 軽度の聴覚障がいであってもPCのスピーカー音は聞こえづらい

配慮内容

講義

- **話し手の表情・口元が見えるように配慮する**（例:マスクを外す等）
- 講義資料は、**できる限り文字情報を多くする**
- **録画授業や音声、動画教材は、できる限り字幕を挿入する**
- **リアルタイムの講義は、録画を行い、文字起こし（もしくは字幕つけ）を行った上での提供を原則とする**

※アクセシビリティ支援室に、文字起こしを依頼する場合は、原則2週間前に連絡。時間(尺)によっては字幕つけも可能

- **ディスカッション等を行う場合は、科目担当者より事前に本人及びアクセシビリティ支援室に連絡する必要がある**

※ディスカッション等のため、リアルタイムの参加が必要な場合、当支援室では、今後、遠隔パソコンノートテイクの実施も検討中

障がい固有の配慮が明確にある！

32

肢体不自由の特徴 学生のメディア授業に対する声

- ・ 主に上肢障がい、下肢障がい、または全身の障がいを有する
- ・ 身体状況に付随して、メディアの見にくさや聞きにくさ、長時間の視聴によって著しく疲れが生じる等が起る場合も考えられる

PROS

- ・ 大学への通学時間の減少、付き添い家族の負担軽減
- ・ 授業スライドを自分のパソコンではっきり見る事ができ、スクリーンショットを行う操作が容易である（配慮事項として板書等撮影が認められている場合）

CONS

- ・ リアルタイムでの授業形態だと、メモを取る際に時間がかかり授業スピードについていけない事が多い
- ・ 小レポートなどの課題が重複すると作業に時間がかかるため提出期限がぎりぎりになる

その他留意点

- 学生の授業の理解度を確認しながら進める
 - ➡ 質問時間を適宜挟む
 - ➡ 学生が回答しやすいように尋ねる
例) 「～については理解できましたか？」
 - ➡ 理解状況を確認できる仕掛け(クイズ、小テストなど)
- Withコロナ、Postコロナを見越して、授業形式の多様性の定着も意識しておく必要がある
 - ➡ 対面とオンラインの共存、両者の使い分けが重要
 - ➡ メディア授業になって初めて、あるいは、状況がある程度落ち着いた頃に、不安定や困難さに気づく学生も想定される

配慮内容

機器操作

- 肢体不自由の学生は、筆記がスムーズではない場合があることから、特に標準的なマウスキーボードでなく、専用の入力装置を用いている場合には通常よりパソコンの操作にも時間がかかるため、**授業のスピードを考慮**する必要がある

講義

- 肢体不自由の学生に発言や反応を求める場合、できるだけ適切な方法を事前に確認する
- 重要事項は配布資料に記載するようにする

課題

- 課題量、内容、期限について適宜調整する

対応としてユニバーサルデザインや他の障がいへの配慮と共通することも多いが、質感は異なる！

34

その他留意点

- 学部新1年生や他大学から入学してきた新大学院生は学生同士の繋がりが少ないことで情報収集も限られ、社会的にも精神的にも孤立しやすい
 - ➡ 授業内で交流の場を設定する
 - ➡ 定期的に個別に連絡を取る
 - ➡ 相談窓口の紹介や促し
- 難病のある学生、SOGI(Sexual Orientation and Gender Identity)に関する学生、留学生、高齢学生なども同様に孤立しやすい

学生を孤立させない対応を！

36

先生方へ

- すでに先生方は現状に合わせた対応に十分にご尽力されている前提でお話しています
- その中で、本日話した内容を全てに対応することは、大きな負担と感じられるかもしれません
- 最初から完璧を目指す必要はありません。まずは可能な範囲での対応や、意識するだけでもOKです
 - 授業担当として配慮依頼文が届いている場合を除く
- 教育環境が十分ではないときは、個別に学生にフォローして声をかける、どうすればよいかについて学生と話をしてください

37

アンケートにご協力ください。

- 本セミナーについてのアンケートです
- <https://forms.gle/h5K2MX3gw8QPyNkS9>
 - CHATでもお送りしています。

■QRコード



38

学生が相談できる窓口

■ キャンパスライフ健康支援センター

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/>

- 保健管理部門：心と身体について
＜相談支援部門＞
- アクセシビリティ支援室：障がい等のある学生(疑い含む)
周囲の教職員(支援・対応について)
- 学生相談室：学生生活全般の悩み（SOGI、高齢、留学生含む）

■ 各部局教務係、学生支援係及びなんでも相談窓口

39

学生が相談できる窓口

- 国際部及び国際教育交流センター：留学生対応
http://ciee.osaka-u.ac.jp/incoming_student_support/support-on-campus/
- サイバーメディアセンター：メディア授業に関する相談
<https://www.cmc.osaka-u.ac.jp/>

40

便利なツール

●字幕スクリプト作成について

- ・YouTubeでの字幕作成方法(作成：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク)

http://www.pepnet-j.org/web/file/online/youtubejimaku_20200421.pdf

- ・自動字幕作成ソフト「Vrew」（無料）

<https://vrew.voyagerx.com/ja/>

You TubeもVrewも、音声認識を用いて自動で字幕を生成します。読み間違い等の修正は必要ですが、時間をあまりかけず、字幕つけができます。

41

参考資料

- ・【第4回】4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム 「オンライン授業における合理的配慮（田中真理・横田晋務）」

https://www.nii.ac.jp/news/upload/20200417-8_Tanaka.pdf

- ・DO-IT(2020)Resources for making distance learning accessible

<https://www.washington.edu/doit/programs/accessdl/resources-making-distance-learning-accessible>

- ・一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会 新型コロナウイルス対策関連情報

<https://ahead-japan.org/covid19/>

- ・筑波大学 障害のある学生の受講を想定した遠隔授業の対応について

<https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/20200409-1/>

- ・視覚障害学生のオンライン授業を支援する会 視覚障害のある学生のためのアクセシブルなオンライン講義

<https://psylab.hc.keio.ac.jp/AOL4SVI/index.html>

- ・研究補助支援ガイドライン（重度視覚障がい）：大阪大学キャンパスライフ健康支援センター（2017）

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/wp-content/uploads/2019/03/視覚障害研究補助支援ガイドライン2017年版.pdf>

- ・ノートテイク支援ガイドライン（重度聴覚障がい）：大阪大学キャンパスライフ健康支援センター（2019）

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/wp-content/uploads/2019/03/ノートテイク支援マニュアル2018年版【完成版】表紙絵つき.pdf>

- ・授業/研究補助支援ガイドライン（肢体不自由）：大阪大学キャンパスライフ健康支援センター（2018）

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/wp-content/uploads/2019/03/肢体不自由授業補助ガイドライン.pdf>

43

ご清聴ありがとうございました

44